Kurume SHIN-AI women's College

久留米信愛女学院短期大学研究紀要，第27号，57～66，(2004)
KURUME SHIN-AI WOMEN'S COLLEGE BULLETIN, No.27, 57～66, (2004)

女性専用車両に関する一考察
～痴漢被害の実態とともに～

岡　部　千　鶴

Study of the "Carriage for Women Only"

OKABE Chizuru

Summary : Last year, the Nishitetsu Railroad Company in Fukuoka, started a new service—a railway carriage reserved for women only, and this was welcomed by most women.

According to our research, one in four women reported she had suffered from molestation in a train in the past year. Now a lot of women get on this particular carriage. Others who don't use this service say it is inconvenient for them when changing trains or when in a rush to the exit, because the last carriage is arranged for this reserved service. What suffers women more is that they could do nothing during or after the harassment. Society must recognize that the molester harassment is a crime.

We should develop more guidance in schools, companies and other public forums to help resolve this issue. The "Women-Only Carriage Service" can help raise our awareness to prevent discrimination against women in Japanese society.

And we must look at other solutions to cope with this situation.

Key Word : The railway "Carriage for Women Only" 女性専用車両
molestation　痴漢被害

1．はじめに

日本では，1986年に女性差別撤廃条約を批准して以来，生活のあらゆる分野において性差別をなくす法整備が行われている。中でも，女性に対する暴力は女性の基本的人権を侵害するものであって，その根絶と救済は男女平等な社会を実現する上で重要な課題とされている。この点は，1999年に制定された男女共同参画社会基本法においても明らかにされている。

また，改正男女雇用機会均等法21条で，職場における女性に対する性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）の防止を事業主に義務付け，地域社会における女性に対する暴力についてはストーカー行為等規制法，家庭内における暴力についてはDV防止法を制定し，その根絶に向けた国や自治体の責任を明らかにするとともに救済の手続きが定められた。

女性に対する暴力の一つに「痴漢行為」がある。痴漢行為とは，公共の場所や公共の乗り物において相手に著しい羞恥心や不安を抱かせるような性的言動のことであり，その多くは男性が加害者で女性が被害者である。痴漢は現行犯逮捕が原則であり，摘発されても刑法の強制わいせつ罪が適用されるケースは稀で，通常は迷惑防止条例により処理される。

迷惑防止条例による送致件数は，年間4,000件を超えると報告されているが，これらは表面化したいわば氷山の一角であり，現実にはこの数倍，数十倍の痴漢行為が発生していると考え

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

るべきであろう。

このような状況に対応すべく，痴漢対策として女性専用車両を導入する鉄道会社も現れた。関東では，京浜，横浜市営地下鉄，JR 東日本，京王の各社が導入している。関西では，京阪，阪急，南海，近鉄，大阪市営地下鉄，神戸市営地下鉄，JR 西日本などである。

九州においても，西日本鉄道が2003年５月26日から女性専用車両の試験導入を実施し，同年11月４日から本格導入へと移行したのである。

本報告は，情報社会学科２年生が，卒業研究セミナーの一環として身近な女性問題の事例を収集する過程において，西日本鉄道の女性専用車両試験導入を知ったことに由来する。

筆者は，指導教官として，彼女らの作成した調査票に若干の修正を加えたり，報告書の表現などに手を加えたりした。調査結果は情報社会学科のセミナー論文集や久留米市男女平等推進センターの調査報告書にまとめたが，本報告ではさらに若干の考察を加え，報告を行うものとする。

２．調査の概要

調査期間　2003年８月16日(月)～８月20日(金)

調査時間帯　午前７時～８時36分（女性専用車両の運行時間帯）

調査場所　西鉄久留米駅構内福岡行きホーム

調査方法　調査票を提示しながらの聞き取り調査及び配布による留め置き回収

調査項目　①女性専用車両について（利用頻度，利用する理由，利用しない理由，要望他）
②痴漢被害の実態について（経験の有無，被害の内容他）

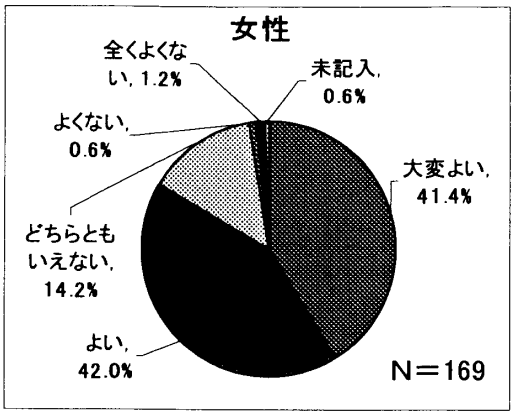
回収数　女性　169票　　男性　58票
計　227票

３．調査結果

(1)　女性専用車両について

①「女性専用車両が５月26日より，平日朝７時45分～９時19分の間に到着する上り特急・快速・急行の最後尾１両に試験的に導入されました。あなたはどう思いますか？」（図１）

女性の回答は「大変よい」41.4%（70人），「よい」42.0%（71人），「どちらともいえない」14.2%（24人），「よくない」0.6%（１人），「全くよくない」1.2%（２人），「未回答」0.6%（１人）であった。男性は「大変よい」13.8%（８人），「よい」46.6%（27人），「どちらともいえない」29.3%（17人），「よくない」1.7%（１人），「全くよくない」3.4%（２人），「未回答」5.2%（３人）であった。



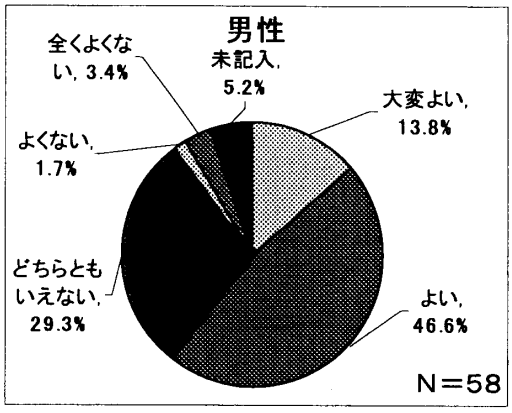


図１　女性専用車両について

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

②（女性のみの質問）「あなたは女性専用車両を利用していますか？」（図２）

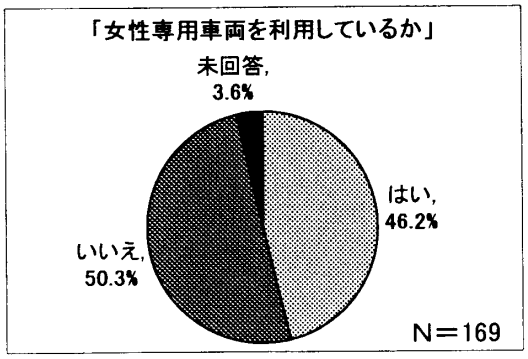


図２　女性専用車両の利用について

「はい」と答えた人は46.2%（78人），「いいえ」と答えた人は50.3%（85人），「未回答」3.6%（６人）であった。

③（「はい」と答えた人へ，）「どのくらいの頻度で利用していますか？」（図３，４）

「毎回」９人，「週に２・３回」11人，「月に２・３回」15人，「その他」44人である。

「いいえ」と答えた人に，その理由を質問した。

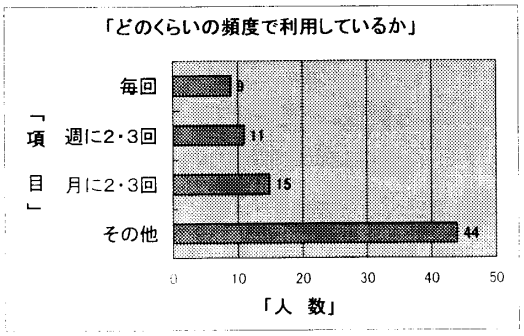


図３　利用頻度

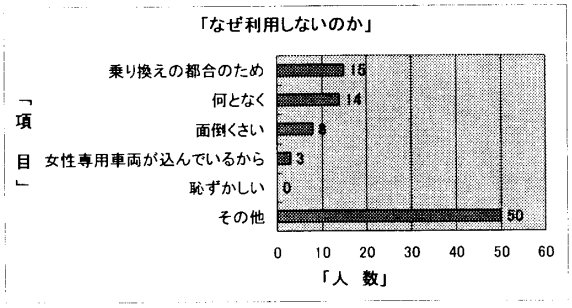


図４　利用しない理由

「乗り換えの都合のため」15人，「恥ずかしい」０人，「面倒くさい」８人「女性専用車両が混んでいるから」３人，「何となく」14人，「その他」50人，（各複数回答）であった。

④「他に女性専用車両を導入するとしたら時間帯はいつだと思いますか？」（表１）

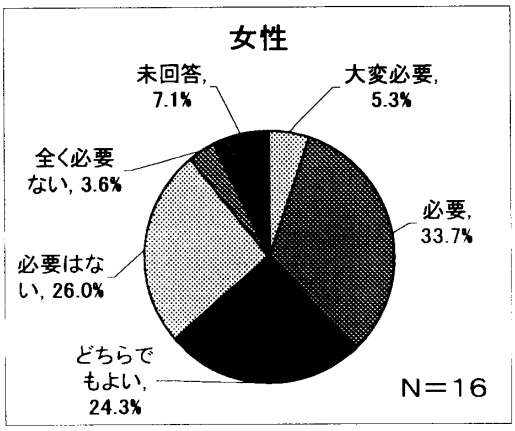
自由記入の結果は次のとおりである。

表１　導入してほしい時間帯

女性	通勤時（ラッシュ時）	７人	朝と帰り	１人	17時～21時	６人
	設定のまま	３人	夜	17人	18時～20時	14人
	朝早く	２人	終日	５人	19時～23時	16人
	夕方（ラッシュ時）	９人	いつでも	４人	20時～22時	３人
	特になし	２人				

男性	通勤時（ラッシュ時）	５人	夜	２人	７時～10時	６人
	設定のまま	３人	終日	１人	17時～21時	１人
	朝	13人	朝はよくない	１人	19時～20時	１人
	夕方（ラッシュ時）	５人	必要ない	１人	20時～22時	１人

⑤「試験導入は平日だけとなっていますが，土・日・祝日も必要だと思いますか？」（図５）



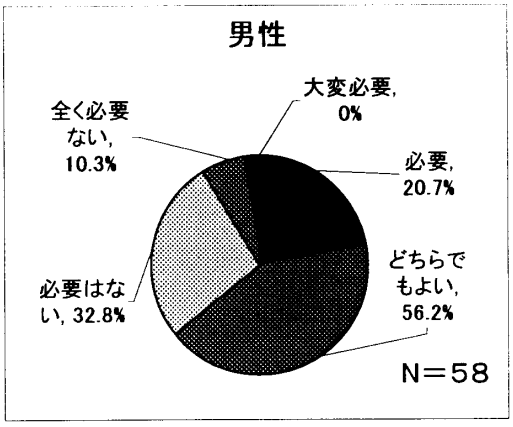


図５　土・日・祝日の導入について

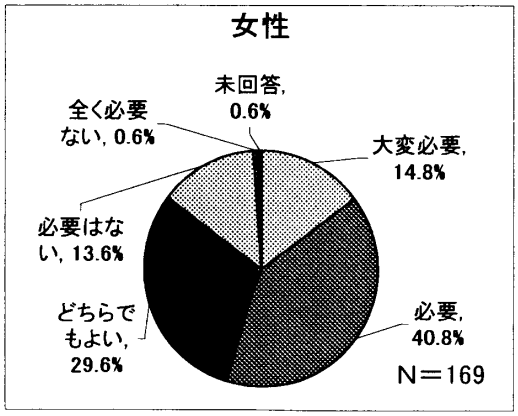
NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

女性は「大変必要」5.3%（9人），「必要」33.7%（57人），「どちらでもよい」24.3%（41人），「必要はない」26.0%（44人），「全く必要ない」3.6%（6人），「未回答」7.1%（12人）と回答した。男性は「大変必要」0%（0人），「必要」20.7%（12人），「どちらでもよい」56.2%（21人），「必要はない」32.8%（19人），「全く必要ない」10.3%（6人），という結果となった。

⑥「今回，福岡行きだけの導入ですが，大牟田行きも必要だと思いますか？」（図6）

女性は「大変必要」14.8%（25人），「必要」40.8%（69人），「どちらでもよい」29.6%（50人），「.必要はない」13.6%（23人），「全く必要ない」0.6%（1人），「未回答」0.6%（1人）であった。男性は「大変必要」3.4%（2人），「必要」44.8%（26人），「どちらでもよい」27.6%（16人），「必要はない」13.8%（8人），「全く必要ない」5.2%（3人），「未回答」5.2%（3人）という結果である。



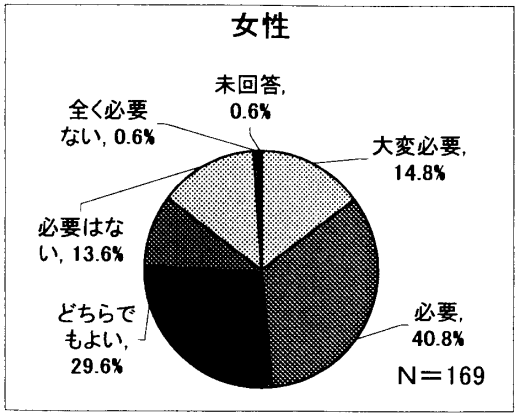
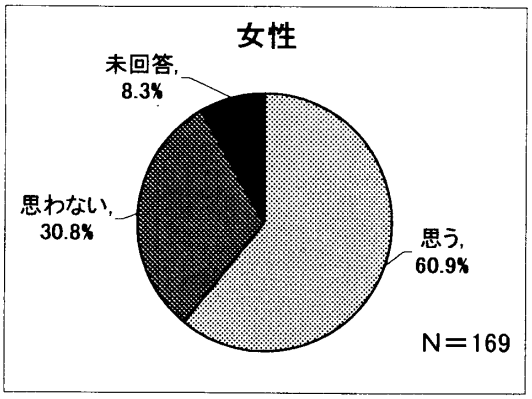


図6　大牟田行きについて

⑦「最後尾ではなく違う車両だとしたら便利だと思いますか？」（図7）



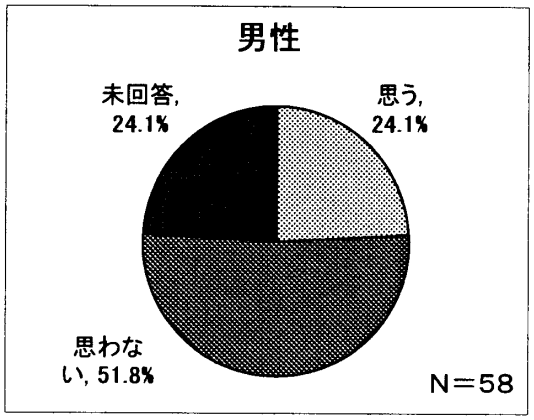


図7　車両位置について

女性は，「思う」60.9%（103人），「思わない」30.8%（52人），「未回答」8.3%（14人）。男性は「思う」24.1%（14人），「思わない」51.8%（30人），「未回答」24.1%（14人）という結果。

⑧（「思う」と答えた人に）「何車両目がよいですか？」（表2）

表2　何車両を希望するか

女性

場所	人数	場所	人数
1両目	19人	前の方	3人
2両目	18人	真ん中	25人
3両目	16人	後ろの方	1人
4両目	8人	階段付近	8人
5両目	1人	後ろの2両	1人
6両目	1人	最後尾以外	1人
最後尾	1人	車掌さんに近い場所	1人

男性

場所	人数	場所	人数
1両目	2人	最後尾	2人
2両目	1人	屋根のある場所	1人
真ん中	3人	不明	2人

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

女性は「真ん中」が一番多く，ついで「前方」という答えがほぼ同数。男性は回答が様々で，「不明」と答える人も。

(2) 痴漢の被害について，その実態（一年以内の経験について）＜女性への質問＞

①「あなたは電車の中で痴漢を見たことがありますか？」（図8，9）

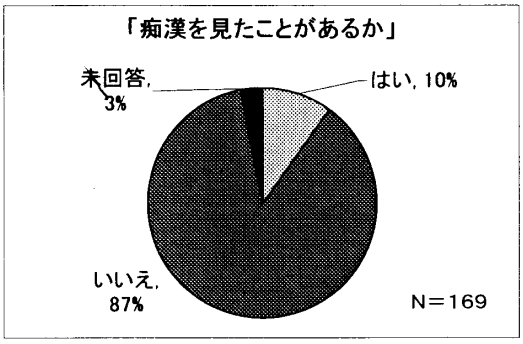


図8　痴漢を見た経験

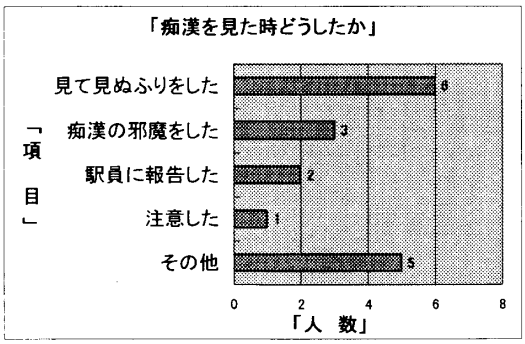


図9　その時の対応

「はい」と答えた人は10.0%（17人），「いいえ」と答えた人は87.0%（147人），「未回答」は3.0%（5人）であった。

「はい」と答えた人の中で，「その時どうしましたか？（複数回答）」という質問では，「見て見ぬふりをした」が6人，「痴漢の邪魔をした」が3人），「注意した」が1人，「駅員に報告した」が2人），「その他」が5人。

「その他」の意見として，「遠くにいるから何もできなかった」「睨んだ」が寄せられた。

②「あなたは電車の中で痴漢されたことがありますか？」（図10）

「はい」と答えた人は28.4%（48人），「いいえ」と答えた人は71.0%（120人），「未回答」は0.6%（1人）であった。

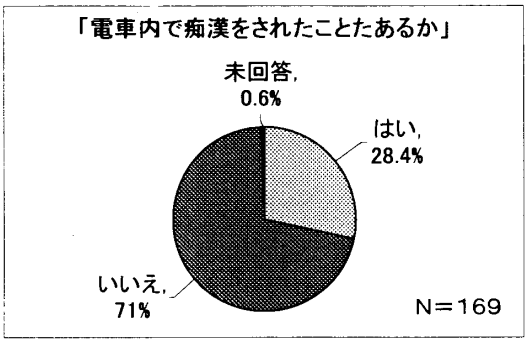


図10　痴漢被害の経験

③（「はい」と答えた人の中で，）「何度，痴漢にあったことがありますか？）」（図11）

「1回」が15人，「2回」が9人，「3回」が4人，「4回」が1人，「数回」が1人，「10回以上」が1人。

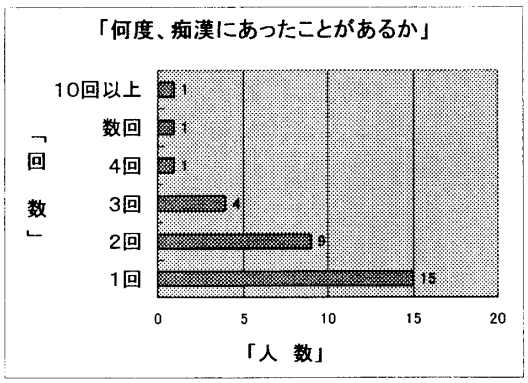


図11　被害の回数

④「痴漢にあった時間は？」（表3）

「朝」が4人，「6時頃」が1人，「7時頃」が4人，「7時半頃」が3人，「7時～8時頃」が2人，「8時頃」が2人，「9時半頃」が2人，

表3　被害に遭った時間

時間帯	人数	時間帯	人数
朝	4	14：00頃	2
AM 6：00頃	1	夕方	2
AM 7：00頃	4	16：00頃	1
AM 7：30頃	3	16：00～16：30頃	1
AM 7：00～8：00頃	2	17：00頃	1
AM 8：00頃	2	18：00頃	2
AM 9：30頃	3	夜	1
AM11：00頃	1	忘れた	1

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

「11時頃」が1人,「14時頃」が2人,「夕方」が2人,「16時頃」が1人,「16時～16時半頃」が1人,「17時頃」が1人,「18時半頃」が2人,「夜」が1人,「忘れた」が1人。

⑤「混み具合はどうでしたか？」(図12)

「動きがとれない程度」が16人,「数人が立っている程度」が10人,「数箇所座席が空いている程度」が3人,「座席が空いていない程度」が2人,「その他」が2人。

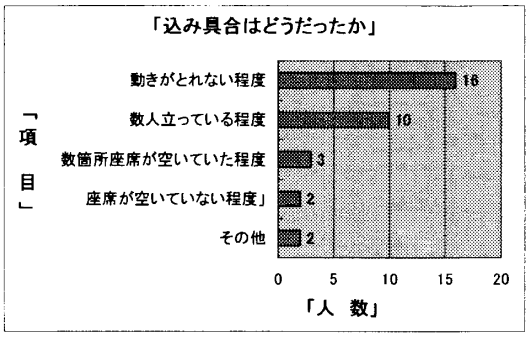


図12 混雑程度

⑥「どの場所にいましたか？」(図13)

「立っていた場合」では,「出入り口付近」が16人,「車両の中央」が4人,「座席の前」が3人で,「電車の接続部分」が1人。

「座っていた場合」では,「中ごろ」が10人,「ドアの近く」が2人,「その他(二人掛け)」が2人。

⑦「その時の服装は？」(図14)

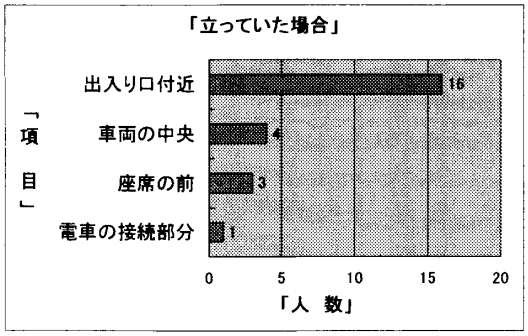
「上半身」では,「Tシャツ」が7人,「ブラウス」が7人,「ジャケット」が5人,「制服」が6人,「セーター」が1人,「ノースリーブ」が0人,「その他」が1人。

「下半身」では,「スカート」が19人,「パンツ(ズボン)」が6人,「その他」が1人。

⑧「どのようなことをされましたか？」(図15)

「服の上から触られた」が24人,「体を押し付けられた」が9人うち{上半身4人,下半身15人},「衣服の中に手を入れられた」が1人,「盗撮された」が0人,「その他」が5人。

「その他」の内容は「触らせようとしてきた」「精液をかけられた」「追いかけられ追い付いてきた」などである。



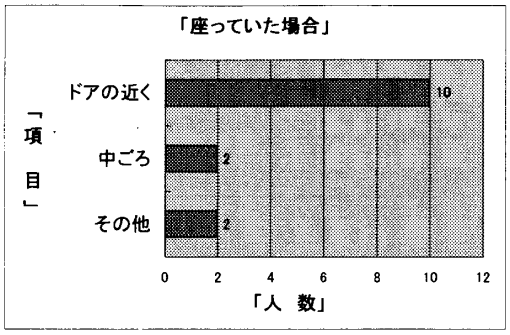
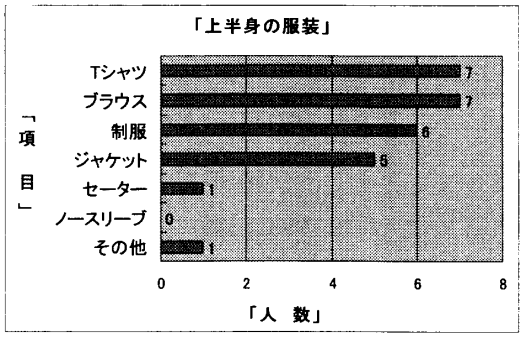


図13 車両内での位置



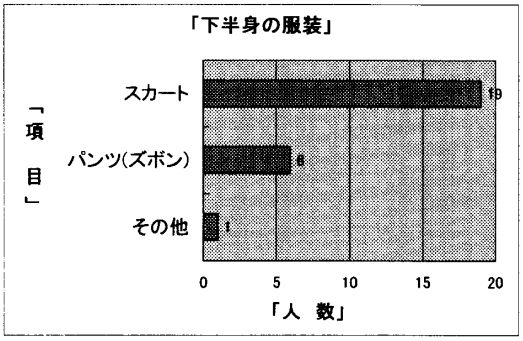


図14 服 装

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

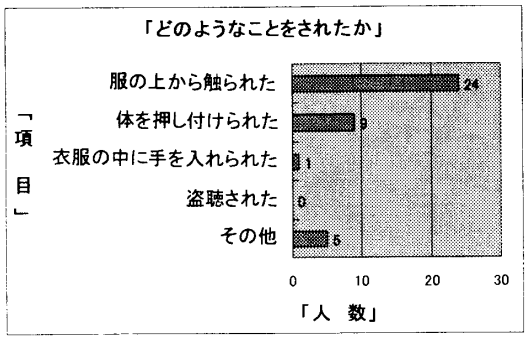


図15　被害内容

⑨「その時何か対応をしましたか？」（図16）

「手で払いのけた」が８人，「カバンなどで防いだ」が７人，「何もできなかった」が７人，「身をよじって逃げた」が６人，「場所を移動した」が６人，「足を踏んだ」が３人，「叫んだ」が２人，「蹴った」が１人，「助けを求めた」が０人，「その他」が６人。

「その他」の内容は，「他の人が助けてくれた」「睨みつけた」などである。

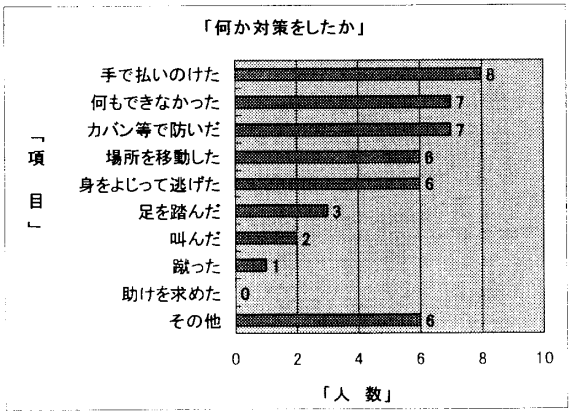


図16　被害時の対応

⑩「被害届けを出しましたか？」（図17，18）

「はい」と答えた人は2.1%（１人）で，「いいえ」と答えた人は66.7%（32人）で，「未回答」が31.3%（15人）であった。（痴漢にあわれた48人の回答より）「はい」と答えた人の記入に「親身になって対応してくれた」という記入もあった。

「いいえ」と答えた人に，「なぜ届けなかったのですか？」と質問したところ，「面倒くさい」９人，「時間に余裕がない」８人，「恥ずかしい」４人，「犯罪だと思わなかったから」３人，「仕返しが怖い」２人，「その他」11人という回答が寄せられた。

「その他」の中には，「動揺したから」「場所を移動したから」「仕方がない」「どこに言えばいいかわからない」「手が当たっただけかもしれないから」などの記載があった。

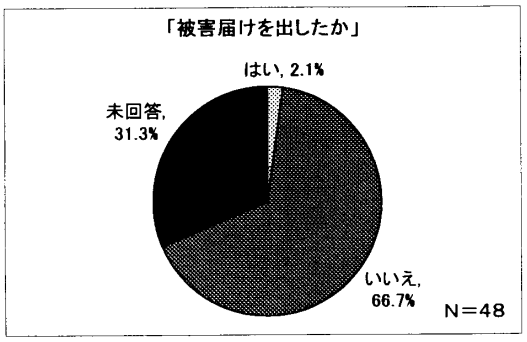


図17　被害届けの提出

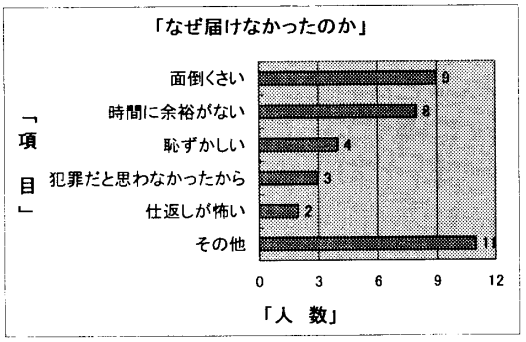


図18　届け出なかった理由

⑪「電車の中で痴漢にあわないように何か対策をしていますか？」（図19）

「女性専用車両に乗る」が27人，「座れるように早めの電車に乗る」が19人，「男性の多い車両を避ける」が16人，「友人などと一緒に乗る」が15人，「防犯グッズの携帯」が５人，「その他」が80人であった。

「その他」の内容は「男の人を刺激しないようにする」「怪しい人がいたら近寄らない」「つり革付近やお見合いシートに座るときは常に気を配る」「人の少ないところに移動する」「露出しすぎた服装をしない」「バックでガードする」「混んでいるときはドア付近に立たない」「変な人が来たら逃げる」「痴漢をされないように気合を入れて乗る」「スカートは長めにする（制

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

服でも私服でも)」「混んだ車両を避ける」「混まない時間帯を選ぶ」などである。

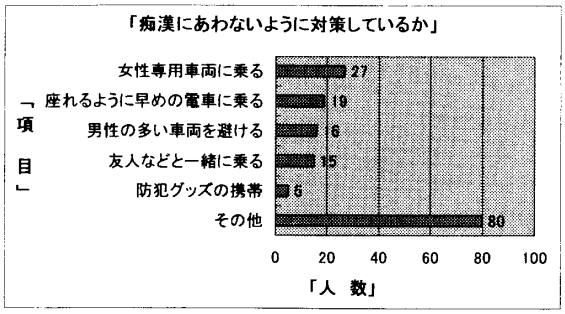


図19 痴漢被害を防ぐために

(3) 痴漢について(一年以内の体験について)
<男性への質問>

①「あなたは電車の中で痴漢を見たことがありますか?」(図20)

「はい」と答えた人は5.2%(3人),「いいえ」と答えた人は91.4%(53人),「未回答」は3.4%(2人)。

「はい」と答えた人に,「その時どうしましたか?(複数回答)」という質問したところ,「見て見ぬふりをした」が2人,「未回答」が1人であった。

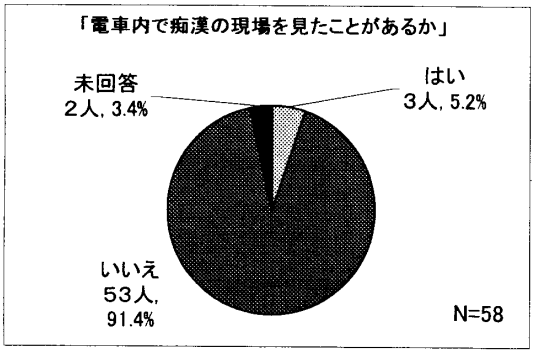


図20 痴漢を見た経験

②「あなたは電車の中で痴漢されたことがありますか?」(図21)

「はい」と答えた人は0人,「いいえ」と答えた人は70.7%(41人),「未回答」は29.3%(17人)であった。

③「痴漢と間違われた経験は?」(図22)

「はい」と答えた人は3.5%(2人),「いいえ」と答えた人は94.8%(55人),「未回答」は1.7%(1人)。

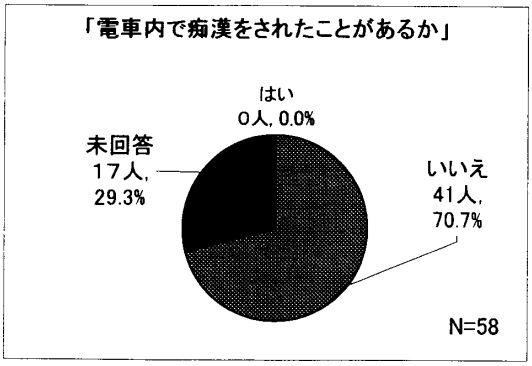


図21 痴漢被害の経験

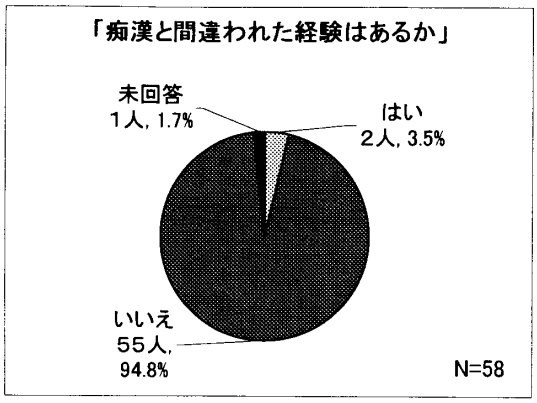


図22 痴漢と間違われた経験

④「痴漢と間違われないように何か工夫をしていますか?」(図23, 24)

「はい」と答えた人は48.3%(28人),「いいえ」と答えた人は48.3%(28人),「未回答」は3.4%(2人)。

「はい」と答えた人に,「それはどのようなことですか?(複数回答)」と質問した。

その結果,「両手を上にあげておく」が12人,「手に荷物を持つ」が5人,「女性と真正面から向き合わない」が4人,「女性の後ろに立たない」が4人,「手のひらを女性に向けない」が2人,「その他」が11人という回答であった。

「その他」の内容は「座っているとき,手をひざの上」「挙動不審者と間違われないようにする」「女性のそばには立たない」「混んでいるところに行かない」「混んでいる車両を避ける」「本などを読んで手をふさいでおく」「手を動かさない」などである。

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

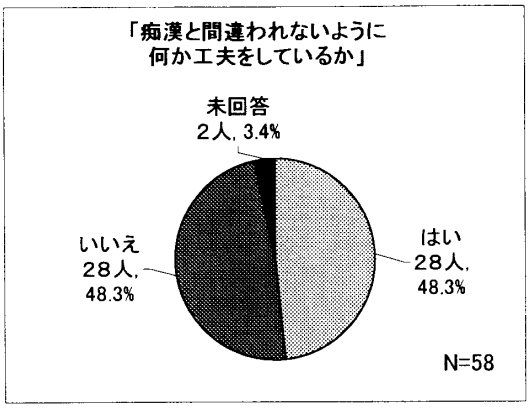


図23　間違われないための工夫

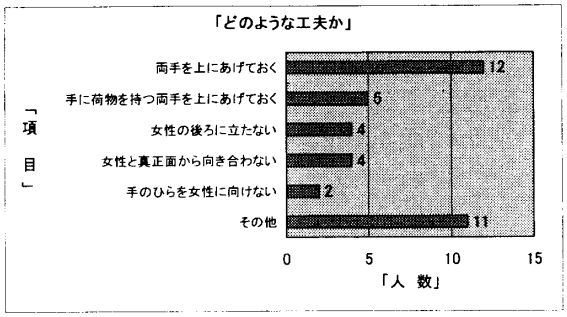


図24　工夫の内容

(4)　自由記入意見より

調査票の最後に女性専用車両に対する意見を書いてもらった。以下，代表的な意見を紹介する。

①女性専用車両導入についての評価

「女性専用車両になり，大変助かっています。男の人の中には，足を組んで新聞を大きく広げて見たり，足を広げるだけ広げて座ったり，1人でわざと1.5倍から2倍くらい場所を取っている人がいる。怖い人や臭い人，変な人に会わないから助かっている。(女性　30歳代　会社員)」「私は利用していないが，痴漢などが嫌で必要だと思う人はいると思う。(女性30歳代　会社員)」「ありがたく，女性も安心。(女性　50歳代　主婦)」「双方にとって良いと思う。(男性　30歳代　会社員)」など，導入に対しておおむね好評である。

②現在の方式についての評価

「不便ですが，最後尾の方がわかりやすくて良いと思います。夜の方が必要！！(酔っ払い等々)(女性　40歳代　主婦)」「階段に近くないと利用しにくい，一番後ろは出口が遠い。(女性　50歳代　会社員)」など，設定車両の位置についての意見が寄せられた。分かりやすさを優先するため，一番後ろが良いという意見と，乗降に不便であるから位置を見直してほしいという意見である。

また，「女性専用車両の部分だけ車両の種類を変えるなどして，見てすぐ分かるようにしてほしい。(女性　20歳代　会社員)」「外装や内装を変えたら，どの車両が女性専用車両か一目で分かる。」(男性　50歳代　公団職員)などと，改善を求める意見もあった。

③要望

「もっと女性専用車両を増やして欲しい。(女性　20歳代　学生)」この意見は多数寄せられた。具体的には，時間帯の拡大を求める声と専用車両数の増加を求める声の2種類が見受けられた。特に，深夜にも設定してほしいという要望が多かった。

④その他

「ホームに屋根がないので，雨の日などはかわいそう(男性　30歳代　会社員)」と，施設の不備を指摘する記入や，「大声でおしゃべりをしているのでうるさい。マナーモードにしていない人が多い。(女性　30歳代　会社員)」「行儀が悪い。席を取り合ったり割り込みしたりする。人目を気にせず化粧をしたりして恥じらいがない。(女性　50歳代　主婦)」など，利用者のモラルやマナーについての記入も目立った。

4．考　察

調査の結果，幾つかの改善すべき点はあるが，女性専用車両に対する評価は概ね好評であることがうかがえた。利用者も多く，当初の試験導入から本格導入へ移行するなど，すっかり定着している。

しかし，「女性専用車両」はあくまでも対症療法であって，痴漢問題の根本的な解決策とはなり得ないであろう。女性専用車両は痴漢が存

NII-Electronic Library Service

Kurume SHIN-AI women's College

在するという前提によって講じられた対策であり，それは「痴漢行為」が日常茶飯事化していることの証明でもあるからだ。

今回の調査対象女性のうち，約3割の人がここ1年以内に何らかの痴漢被害を受けていることが明らかになった。データの信頼性及び客観性にバイアスがかかっていることは否定できないにしても，この結果を見過ごしてはならない。

今後は，ラッシュ緩和の対策検討，痴漢行為への罰則強化などの検討が求められるのではないだろうか。さらに，性暴力防止に関する各種啓発及び教育活動が，社会全体において，より一層展開されることを期待したい。

5．おわりに

残念なことに，女性に対する暴力は，まだまだ数多く存在する。「痴漢」行為は，女性が被害に遭いやすいもっとも身近な暴力の例である。にもかかわらず，私たちは「痴漢」が犯罪であるという認識に乏しく，時に見過ごしがちとなっている。

痴漢の被害は季節や時間帯に関わりなく発生し，その種類や手口も様々である。いわば「通り魔的」な犯罪であるにも関わらず，「被害に遭う女性には隙があった」「女性も落ち度があったから狙われた」などの発言が時としてなされ，女性に責任が転嫁されてしまうことも少なくない。このような発言が許容されること自体，社会全体が痴漢行為を許容していることの表れなのである。また，今回の調査において，被害届けを出した女性はわずか一人という事実も明らかとなった。届け出なかった理由は前記のように様々であるが，「痴漢は犯罪である」という認識が女性の側にも乏しいことが推察される。

今回の調査の自由記入に，「女性はその車両に乗るべき」「女性専用車両だけを設定するのはおかしい。ある意味男性に対してのセクハラではないか。女性専用車両を作るのであれば男性専用車両も作るべき」などという意見が男性から寄せられたが，女性専用車両導入の契機が痴漢被害防止及び被害者の救済に端を発することを考え合わせるなら，これらの意見が的外れであることは自明である。また，「女性専用車両があるのに，普通車両に乗っていたら，『痴漢されたい』と思われますよ」という非常に不愉快な記入もあった。このようなことを書く男性のモラルを疑いたい。

今回の調査は5月から取り組みはじめ，卒業間際の3月までのかなり長い時間を費やした。その間，他の科目を学び，実習を体験し，レポートを仕上げ，試験を受け，就職活動に取り組むなど，学生たちは非常に多忙であったと思う。特に，調査票配布時期は盛夏であり，体力的にも厳しかった。学生達の頑張りに，改めて敬意を表したい。

自ら問題を発見し，問題解決の手法を検討し，目標に向かって全体で取り組むという卒業研究セミナーの趣旨は十分に果たされたのではないだろうか。学生一人一人が今回の調査を通じて何らかの収穫を得たであろうと確信している。

なお，この調査研究の実施に際し，西日本鉄道株式会社様並びに鉄道警察隊の皆様から，多大なるご協力とご助言をいただきました。また，久留米市男女平等推進センターの調査研究事業に選定され，活動補助金の給付を受けるとともに調査研究スタッフの方々からも貴重なご示唆をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

（セミナー所属学生　合原友維，田中李枝，初村香織，松岡由里子，松嶋芳美，柳本綾子，山口真貴子）

参　考　文　献

・『セクハラ・DV・ストーカー・ちかん　被害者を救う法律と手続き』中野麻美他著　自由国民社　2003
・「女性に対する暴力防止対策プロジェクト　なぜ痴漢はなくならないのか」藤田久美子著　おうてもんジェンダーフリースタイル発信所　2003

（2004年3月13日　受稿）

NII-Electronic Library Service